



艶道通鑑卷之三

忘之情目錄

- 一 高向のふり辰
- 二 佐保姫の辰
- 三 松浦佐夜姫の辰
- 四 文正の娘の辰
- 五 錦木の辰
- 六 葛城の大君の辰
- 七 井小の下級乃辰
- 八 行平中納言の辰
- 九 大和園の辰

秋石山



- 十 源の頼是乃辰
- 十一 静女乃辰
- 十二 源乃頼政の辰
- 十三 化粧坂少将の辰
- 十四 妻くつゝ物の辰
- 十五 想翅の鷲乃辰
- 十六 小栗照雄の辰
- 十七 太田道灌の辰
- 十八 更科弥七乃辰
- 十九 瀬川采女々妻の辰
- 二十 人目乃関の辰

附漢の司馬相如事

一

高岡のよ乃峯れ向雪成金乃るくくく。杉の絶るんぞ
 ぐりと傳うて云度人目の関字小胸の関若と物をちり
 是はたれなき名はから。付と還さこの思も路せり。ねは風の
 翠廣小落くげくはも君が面さくやんを。離の外表くやん
 我まらぬ物越の移りけしゆふ。ゆらけくつと。又も剣の猫乃
 首をいみ。み縫きく通りと。蝶の羽よ奇とて。君が往くこといと
 寂らぬはうい。さらけ物森がられ奈もけく。我ががら我魂を
 ら杯に一向此公止移し神に控えんと。又も南朝と根く
 志ねんもうれ。物背に陸突坊もは怖も。又も其まに中
 乃難をういむんばとぞ。志の取中といひ。件てぞ世の強面

漸も深る。人の心術も情もなり。我も懲りて。今つらき後。
そのばたれた心を。物ありた事。中。朋友の付合。も。あまね。惠
も。や。つ。ふ。身。操。する。わ。れ。は。君。子の。心。事。に。依。り。物。ぞ。是。と
後。成。御。し。人。の。心。を。わ。か。り。は。し。と。意。を。言。は。道。に。あり。兼。め。一。本。に
我。も。わ。か。り。た。心。の。事。を。わ。り。て。是。は。無。事。の。心。の。業。も。さ。げ。ぬ
もの。也。浅。く。の。ま。げ。と。ゆ。え。と。ふ。か。れ。の。ほ。ろ。け。で。又。う。の。ま。れ。る
人。里。へ。あ。そ。ご。し。佛。の。教。も。神。の。授。け。も。不。識。人。に。世。に。ゆ。り。と。
律。經。の。毎。日。こ。の。け。て。信。が。あ。り。ま。る。あ。じ。不。死。の。心。と。信。に。
し。と。わ。か。れ。る。の。心。也。佛。へ。入。解。脱。の。徳。を。な。げ。る。也。神。の。鏡
に。て。ん。り。の。心。也。天地。乃。を。さ。して。天地。の。心。操。り。ん。也。何。れ。

三

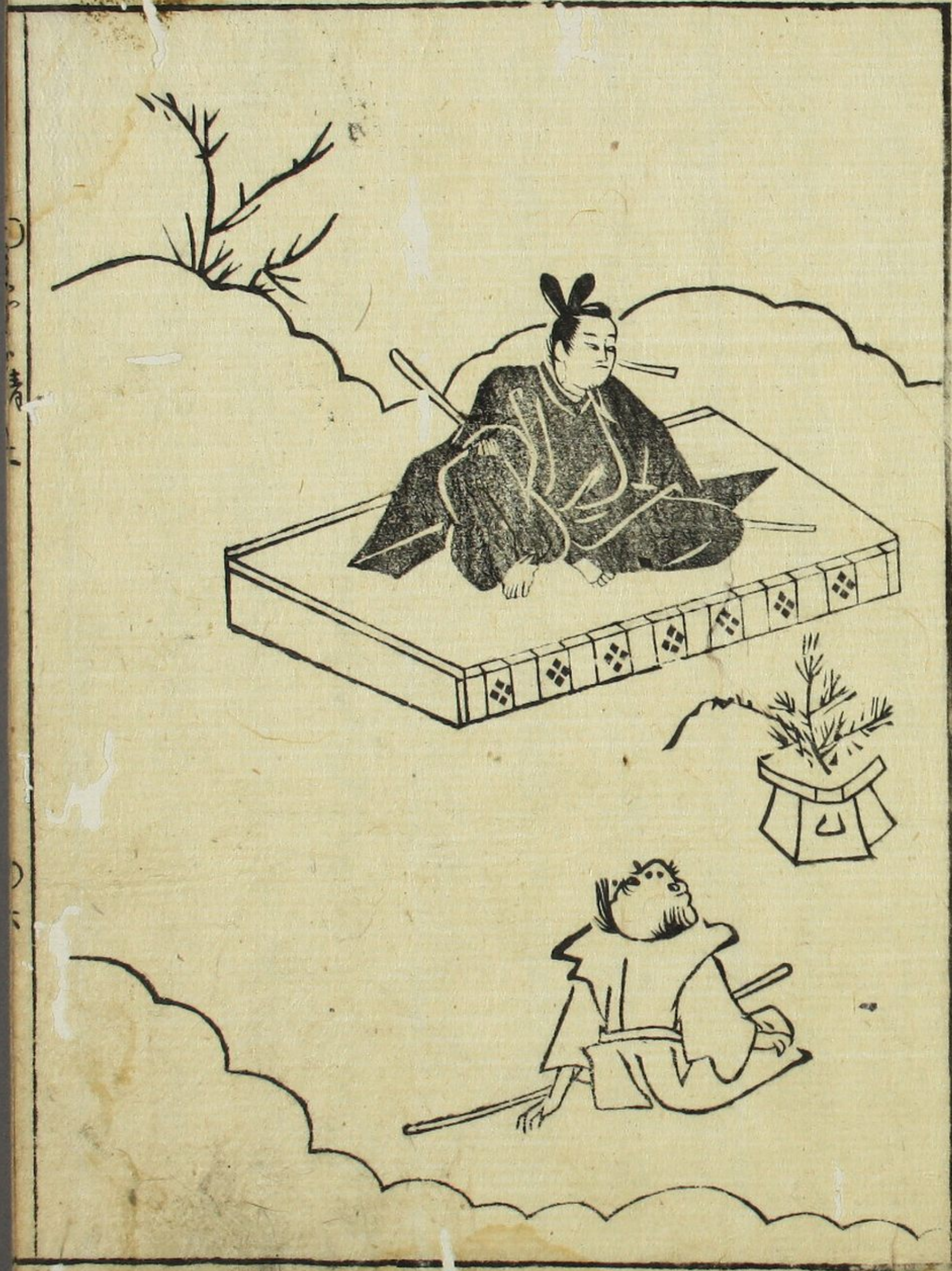
う。ま。い。ら。り。事。有。る。ま。で。意。を。後。に。け。る。の。心。事。一。か。り。む。ら
そ。ふ。昔。の。よ。う。く。わ。り。決
垂。仁。天。皇。天。が。事。と。ま。り。ゆ。す。元。年。より。所。信。し。仰。ま。り。事。百
年。世。世。の。民。治。り。て。大。和。國。一。都。造。り。て。行。せ。る。所。后。に。後。推
世。の。事。も。て。善。し。た。事。は。女。の。こ。も。め。事。業。に。お。か。し。め。つ。に。
た。右。の。侍。人。中。帝。皇。帝。に。ま。り。其。道。に。お。か。り。て。心。を。の。後
つ。た。え。る。心。也。其。徳。化。を。帝。に。死。す。ま。り。邪。説。傳。り。は。
と。と。され。ば。双方。の。心。中。髪。一。筋。の。間。か。く。水。も。も。れ。ら。り。は。考。み
け。つ。ふ。后。れ。は。後。推。世。の。心。事。に。お。か。り。て。心。を。三。帝。と。信。
ま。り。事。有。る。心。也。心。を。後。を。嫌。ら。り。心。の。事。と。あ。り。ま。り。

心術

心術

うぬい帝と殺しとせん物来せし。或時帝后の勝と枕し
眼体有けり。后と折らむ。害し給りんとあけり。打返して
足のとあるんか。そ目し。けは情のうまじ。うせもまねれ。語も
いそつ化。さぶま。さやんか。とあひい。うま。ゆ。後を。うて。おこ
る。帝は。お教へけり。と。おりけ。い。帝は。あ。さ。め。の。あ。ま。ら。我
勝。枕。と。体。と。け。り。の。強。さ。の。小。蛇。来。り。て。殺。し。は。く。り。て。目。を
さ。め。い。わ。い。の。あ。ゆ。そ。と。同。也。多。い。后。の。包。に。埋。ま。り。て。さ。の。ま。ね
ゆ。る。多。い。帝。は。ま。ね。ら。り。と。ま。い。お。も。あ。申。じ。志。は。し。海。乃。か。い。と
ゆ。も。う。ま。ら。る。ま。じ。さ。も。ね。り。ん。う。ま。う。ま。じ。え。づ。謀。叛。足。罪。一。及
び。と。そ。あ。く。謀。伐。と。し。と。軍。卒。と。は。り。後。者。が。城。と。攻。ま。せ

らる。家も后也。す申す。我帝に忠貞。われも。足と誦。し。糾
の。ん。が。じ。や。ん。つ。う。後。者。が。城。よ。う。の。強。り。若。く。は。焼。死。す。ま。ぞ
保。と。く。后。の。身。操。り。く。ゆ。り。て。ゆ。突。も。強。り。う。ふ。あ。と
後。者。乃。と。あ。り。き。も。二。公。の。物。来。り。ま。じ。推。て。帝。乃。に。後。者
謀。を。か。ま。り。て。天皇の腹を。そ。后と推。せ。り。あ。ん。や。り。り
耳。打。に。后。も。不。承。い。う。け。公。の。極。を。あ。ひ。て。足。乃。あ。い。ま。り。と
い。給。い。ん。さ。れ。も。帝。乃。余。念。や。れ。勝。枕。の。待。り。ま。い。殺。し
身。の。い。か。ら。使。さ。れ。も。我。も。志。し。この。は。し。た。よ。秘。し。め。ら。ん
し。也。年。を。か。わ。り。志。公。の。ま。り。る。ま。い。あ。い。あ。り。し。ま。よ。う。と。は
後。と。あ。り。て。帝。乃。愛。と。申。ら。り。う。ま。り。ん。殺。を。か。り。う。ま。ら。ん。



あつた。この徳實理の計りゆゑ家々に此者なりとては國司
を及んだ。一人は給ひもせり。と。東行の妙は。此等の道。ゆゑに也。
此類のたゞ。うゝの給ひ。情のたゞ。心をも。海も。あつた。み
づり。あつた。事と。極む。たゞ。親も。あつた。事と。あつた。事と。あつた。事と。
元は。極む。たゞ。い。つ。の。女。は。可。成。は。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
く。は。女。は。可。成。は。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
母。は。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
さ。り。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
し。り。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
た。り。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。

たれが。女。は。可。成。は。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
さ。り。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
し。り。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
た。り。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
と。て。世。乃。は。可。成。は。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
の。中。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
昌。は。可。成。は。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
評。よ。回。女。は。可。成。は。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
ふ。あ。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
一。世。と。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。
い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。極む。たゞ。い。つ。の。

せんくさつれいと歌板まきなる采女の女。肌色とんく

法音ふりきりてゆるゆるの井乃

あきくも人をねらふものか

か詠でいふつとそ採娘とるぬし事の人か。國治る部
がうりしあ妻の長とお終り。國こころそ大から乳あもるびさん
そ。一着の詠。千葉の謀をそくたぐん。その賢多今に強かり
ほとく。采女とい昔國より眉目よく。おは賢と女と撰を
内裏ふたれて下司めおつらけ女の事ちり。そのやそ一人
の名よいわけ。此何と法足公の人ま。陸奥より石連のやん
や。志うよ女あはし。法足と乃のそら形。おといさそそまの

いふ詠とほくそおん。うれゆし事の大幸ぬれと
採りきたよ。妻どもね。國ちる。そと法音とよ。よとて。色ん
げゆ。あきり。あいら。妻の福もい。おと。法足とい。色早く
悟りた。勇気まが。ては。よくと。采女が。才智。わが。の徳。りあ
く。お曲を。直ぬ。君が。母とい。か。けら。都の。ちる。り。ま。風。後。に。の。こ
る。は。い。あ。け。法。足。の。事。女。の。不。束。よ。う。の。奇。も。ら。で。化。ら。じ。そ
ぞ。あ。る。ん。か。推。ど。て。い。さ。ら。ぬ。け。入。り。と。い。い。情。と。う。の。い
別。の。物。め。ま。せ。け。ら。結。し。書。女。う。魂。と。う。つ。と。た。と。ち。紙。
は。こ。の。虚。人。と。い。つ。る。れ

七

大和國井中。いさく。びう。一。幣。使。し。大。川。の。内。舎。人。ぬ。男。撰。い

采女清上

〇九

うのりて下りける小宿家ハ八景の如ク其の童の髪は
肩より後垂して髪を結つるべくもあらず其髪を梳き
しつら眼をこらひ淨然とえまつるなりき色を眉の白
輝指ぬ髪をのちて髪は細くながら糸状の如くゆき
らんをねぐさ行通して物くらひゆる安堵なくあまき
声流耳にけまきかひの思ふに男打んく今もく髪を
生長かんぬ世れやちのちめて人れ結つてまるとや
お招きせてもあてぬらんいりしむいしむおれた
手くまきいんさか戯れまは我身に海外とつた完
笑く傾つる様と細く指おきて下細とまるとしつ
細く

怪いて取細の板刺きて七八年を経て其をらと通
男い井子の里と志れらるる或る朝う被男れ名は
由合。うく怪そ後の契はわけるぞと井子下
細く

とれくー井子の下細の先らり
おとれくー井子の下細の先らり

傳は同今の世も稚多れども女子の早くとは
このれを怪ぶものやあま。最後とらう姿
をいれど天柱と意とあつたものぞ偽
とれ。一念五百生燈念を切いのま
地くがひ

何い大も蛇も女も。上道四半の窓ゆるさど。昔の
このねとあつた。海をさかど道よりけし。髪をかきだ。
昔籠り媒もさかど道。

八
行半中絶言はく。流れてもぬれつ浦づゝい。赤り赤
ゆるしい。後時の浦よりさきより。中へ昔よりあつた
さかど道ゆるゆる。さきより流れてい。げんた体もさかど
あひのさかど。昔あまんとりあんど。

あひのさかど。渚より昔あまんとり
あまのさかど。宿よりいりり。

や後く海よりいり。中絶言はく。流れてもぬれつ浦づゝい。赤り赤
ゆるしい。後時の浦よりさきより。中へ昔よりあつた
さかど道ゆるゆる。さきより流れてい。げんた体もさかど
あひのさかど。昔あまんとりあんど。

あひのさかど。渚より昔あまんとり
あまのさかど。宿よりいりり。

と。しも不掃除からぬの由。様々たるや。狐火を掃掃
床を掃。掃くらる。一夜二夜の事か。よ。こ。を掃くぬり
揮ひ。その改鼻を其儀よ。昔の園本のや。い。う。と。い。ぬ
動。く。密。を。て。立。別。と。つ。ら。る。ば。は。洋。洛。が。き。ん。く。氣。だ
ま。り。て。う。の。物。衣。を。形。見。と。も。又。質。草。の。持。ぶ。さ。の。や。磯。の
義。理。と。人。立。鳥。帽子。に。わ。く。智。わ。く。情。あ。る。又。村。あ。ら。れ
し。時。く。う。ら。は。人。を。て。う。さ。ま。き。れ。ぬ。と。い。ふ。さ。う。い。ら。ら
ら。が。と。よ。か。り。や。結。く。さ。え。ば。ゆ。う。ん。ほ。づ。と。う。も。残。る。意
我。身。お。好。事。と。ふ。ぬ。ら。ば。同。氣。の。需。と。い。て。ら。う。ほ。く。い。天
地。の中。れ。者。也。若。大。和。乃。國。一。休。困。と。や。い。の。男。わ。ら。ん。じ

九

や。ん。く。其。身。人。の。過。て。を。如。強。わ。わ。れ。ぬ。生。得。の。優。か。ら。り。
世。の。業。朝。夕。れ。世。来。は。う。う。は。身。の。綺。羅。と。か。さ。は。吟。吟。事。味。と
か。さ。の。と。似。ま。は。て。子。路。が。意。氣。し。移。り。自。然。と。原。憲。が。才。探
ひ。叶。つ。り。か。た。と。七。僻。と。中。此。男。が。一。僻。ハ。朝。言。草。花。と。お。と
ふ。事。は。よ。う。さ。う。痛。苦。の。花。の。雪。と。破。り。て。候。袖。し。より。水。伝。の。お
れ。下。は。わ。す。ま。て。ば。あ。葉。紅。菊。は。け。也。八。格。の。杜。の。ほ。香。乃。草。蒲。
深。沼。の。葉。本。早。回。の。は。原。桔。梗。か。う。う。女。帝。の。花。は。さ。ら。は。花。時。時
ま。は。り。ぬ。野。百。合。花。子。は。花。の。花。一。八。格。持。た。わ。や。ぬ。越。子。の。わ
さ。は。風。車。鉄。仏。收。骨。ぶ。う。者。を。な。ら。う。極。よ。這。也。雞。頭。は。流
木。し。石。竹。の。編。を。入。根。よ。土。う。ら。を。ま。あ。打。枯。葉。は。洗。し。づ。と

を播一年二百五十石、然るも昔一畝を播く風といふに、
 のより、約あり、よむつ、ふり、の、か、ら、り、
 投入、業、と、の、し、く、を、と、あ、ら、ま、り、
 爰も、然、染、も、致、し、所、を、も、中、も、打、て、む、り、
 の、か、い、お、の、ぞ、た、然、と、て、夫、の、を、お、さ、り、
 一が、彼、も、又、天、州、の、お、お、と、て、信、ふ、お、
 四、ま、の、絶、ご、う、絶、せ、一、が、あ、ら、ま、り、
 て、あ、ら、ま、り、の、し、く、を、と、あ、ら、ま、り、
 ろ、か、が、お、の、忙、か、の、お、お、と、て、
 娘、も、お、お、と、て、お、お、と、て、お、お、と、て、

連、理、草、を、お、お、と、て、お、お、と、て、
 か、け、を、お、お、と、て、お、お、と、て、
 志、ろ、う、お、お、と、て、お、お、と、て、
 油、と、て、お、お、と、て、お、お、と、て、
 と、あ、ら、ま、り、の、し、く、を、と、あ、ら、ま、り、
 くだ、つ、お、お、と、て、お、お、と、て、
 さい、お、お、と、て、お、お、と、て、
 一、お、お、と、て、お、お、と、て、

係、は、同、稚、子、の、多、物、を、喫、て、
 の、氣、が、中、さ、い、配、と、か、い、と、ま、り、
 胃、

一歩にてもいふ所んが言おは風流といひて女子はうさ
 せむらうがさらけりして人のうさうを移さずがらひて
 よよいそむ優まごう。人ほまじ事とらよとていふていふた
 だ。女のうさうのたたり。何さくうらうさなむとこの
 ついせむらうのたまりはらあてはてあうたうたうた
 らせむらうて。難うくほまもむね移る。こけるいふを
 さしあはよわむら。女子のこむじよひれて。男の衣紋ねらう
 いふくたまりのたまりあつたさした。びんうあうずわ。女のさなせ
 らう。程ほどさふもせん。さうもわくまで世にいさあさうや。
 伸て朝夕の言わよさなこのひのせらうつよ言はわます。

同。程のたまりもぞ。う種よりわつて。腰突か下女を
 らうり下男と着て服さうんといふ程にして。飯いひ言いひい。いど
 一いふ程のたまりあつた。親らうつうてをさうらひさした。内
 よりふ言わう。うらう。儀ぎよめて成人とて。やまをわつ同より
 下さか言いひい。及およびらう。そは後仕ごしは。小筆こひ京きやうりよ。下考げこう
 親らう。はせき善ぜん程ほど。ちん協きやうへあて。ちん長ちやう癩らか。かり。
 同。い用もちら。わに。むら事ことれ。元もと身みを。お合あひ。おわて。あせと
 ころ者もの張はる。ふ。大人おとな小人こどもも。早はやきふ。流なが形かたちは。う。さ。と
 う。い。ま。ら。を。乃のけ。さ。さ。ら。う。の。め。也。そ。ら。は。く。事こと神かみの。極たぎ
 ころり。社やしろ。一ひと人ひとの。性しやうを。そ。ら。な。く。さ。さ。ら。う。ら。く。一ひと人ひとの。飛とび

〇一巻の性

〇十四

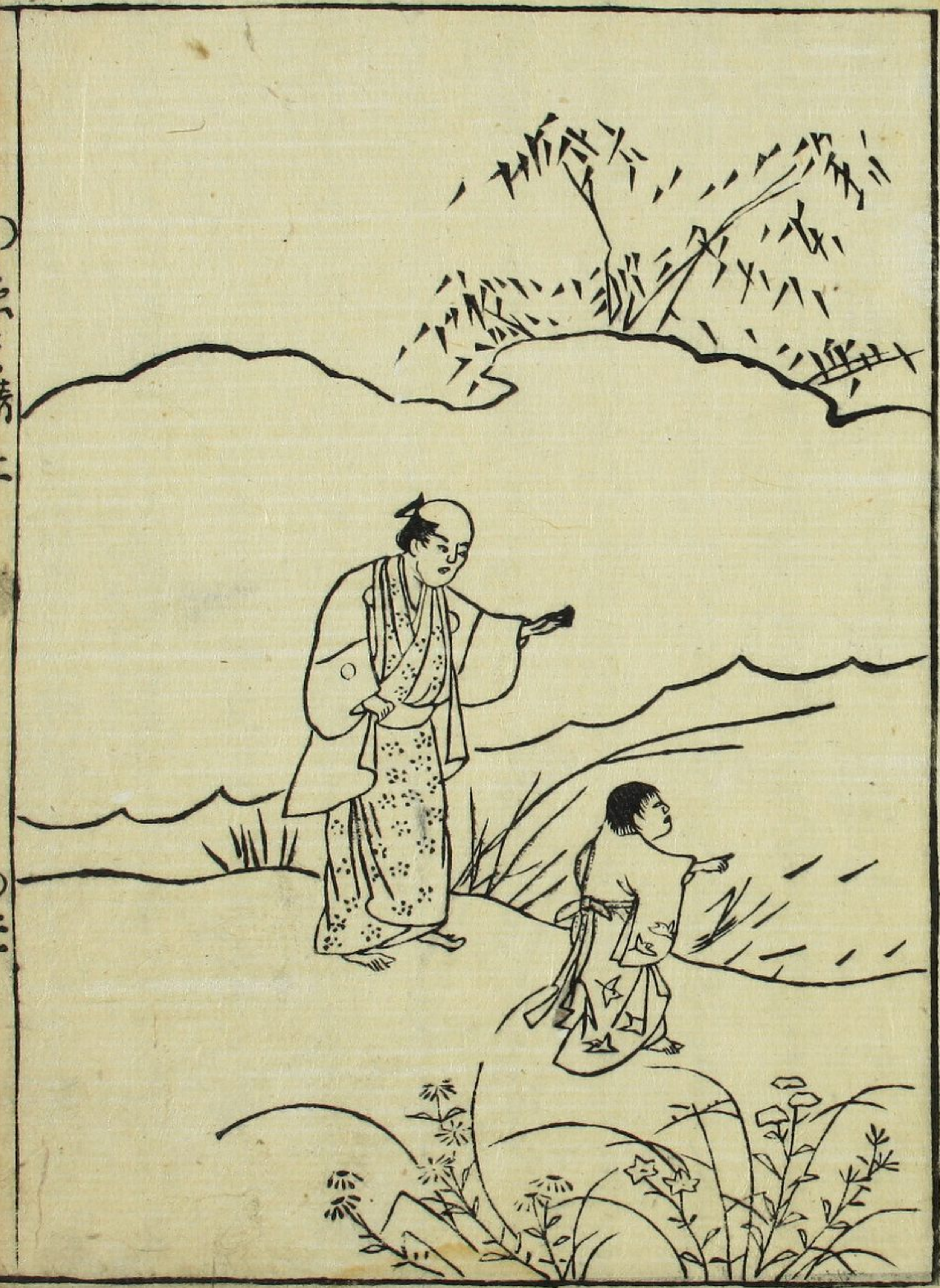
十
 海の相克に仁勇の操を以て人を治めざるは古今に於て
 ずく如く。天王の命に世とてうたへたり。飛とうへ大にの酒類を殺し。
 牛を射て鬼朋の業を為さざり。妙術林檎を喰ふ女を射く。た
 克六条より二条を過にがむいひて世よはげくろき女あらまろ。
 或長慈びて座りあまづつこよらる所の能わぬをぬれぬに
 ゆひがらそて座りにくじりみわむやれ棟と君ありと。そなろう



〇
 上

〇
 五

鳥のついで



血の平。を法。い。ま。づ。と。あ。ま。づ。の。は。梳。束。ほ。を。新。季。ハ。と。れ
り。と。の。い。も。者。う。の。う。人。美。利。自。傍。と。て。年。ら。凡。の。衣。級。つ。こ。
幸。り。服。の。梅。の。来。香。車。の。う。ち。り。と。せ。れ。中。へ。ぐ。つ。と。ち。ち。わ。し
ろ。男。る。れ。化。粧。坂。の。ち。れ。の。孤。獨。も。ひ。せ。れ。と。案。カ。ク。レ
よ。り。て。ま。こ。つ。舌。教。千。語。口。舌。あ。ま。う。つ。と。う。り。色。と。介。て。あ
脇。を。や。あ。く。んと。も。孤。人。お。を。あ。わ。せ。た。く。一。は。づ。ろ。う。も。う。だ。い
ら。も。款。も。し。ら。と。う。れ。志。れ。の。ゆ。人。公。の。を。よ。う。と。を。こ。て。中。よ。う。と
の。ち。あ。わ。ら。い。じ。う。く。う。く。ら。い。も。案。れ。ま。じ。う。く。も。よ。う。く。も。う。の。産
切。は。碎。踏。て。く。れ。い。は。う。も。也。舌。教。て。ん。と。れ。い。わ。せ。と。あ。く。
強。り。甲。の。下。階。と。と。う。い。は。あ。く。と。で。あ。け。け。と。と。う。が。は。ほ。た。が

は。洲。も。を。指。を。越。ら。と。と。う。く。け。屋。の。お。ぬ。情。を。ま。実。と。と
と。う。う。い。ま。う。つ。れ。ほ。ま。と。ぬ。れ。い。十。日。廿。日。の。つ。け。あ。め。
か。の。つ。と。あ。い。か。と。せ。だ。園。の。戸。く。く。閉。ぢ。つ。と。ふ。い。咽。と。か。も
う。と。也。愛。と。い。り。づ。り。と。あ。め。の。い。づ。り。う。結。い。ち。と。あ。つ。ゆ。づ。れ
ふ。何。も。い。後。で。考。え。た。う。り。と。あ。め。の。身。と。そ。あ。め。の。同。を
く。ぬ。を。指。つ。と。せ。て。今。宵。い。く。さ。の。天。川。川。系。乃。早。命。と。つ
わ。じ。う。い。ま。も。い。ら。と。と。悲。び。編。を。ま。う。く。と。有。格。子。た
と。う。づ。れ。は。は。い。梳。束。と。い。ま。中。づ。つ。と。め。れ。の。あ。ら。う。と。根
の。あ。ま。い。わ。い。ぬ。案。れ。の。何。く。う。と。じ。一。ま。と。う。け。と。み。い。の。中。く
み。日。や。三。日。の。案。を。う。く。と。も。う。い。づ。れ。案。か。く。ま。だ。う。と。あ。め。

金仏の耳より入ぬといふ。何家か世を盡さるるに。中く現
引よを何となく

色と見れば夏路よとあり宿りか

つれなきは。又もつれん

か。去てお捨て帰る。女はけ等のとて。みとて。ひのこ
く。身あきて。今のは。あも。や。し。何よ。を。か。と。ひ。ま。
い。た。く。ふ。あ。と。海。ま。さ。り。と。と。南。の。新。路。よ。ひ。う。く
と。推。し。ま。ふ。う。う。と。よ。と。それ。より。ほ。ま。と。ゆ。い。ろ。を。ま。り。
す。の。衣。と。せ。ぬ。と。ひ。う。り。折。よ。ふ。れ。て。く

持る身。な。ぬ。ゆ。ひ。て。と。あ。ら。の。い

と。より。り。け。れ。ぬ。ま。さ。け。あ。り。き。り

や。平塚の宿。して。ほ。ま。が。時。家。と。遊。も。げ。と。越。わ。り。や。
時。家。が。宿。後。よ。ほ。ま。が。方。か。見。中。り。と。今。ま。お。お。お。お。お。お。
と。え。る。ん。と。つ。り。ま。げ。下。を。う。う。う。や。後。よ。り。あ。れ。ま。さ。け。と
ハ。是。と。そ。い。ふ。ば。さ。う。れ。女。乃。る。い。の。結。末。と。あ。い。又。ハ。は。じ
あ。ら。う。う。金。金。と。こ。そ。ね。よ。い。帯。の。お。ん。り。て。あ。ら。め
り。それ。を。物。も。や。と。せ。ぬ。な。し。の。よ。ま。ま。と。ま。ま。ん。は
を。ら。う。の。身。よ。は。後。も。も。や。を。れ。わ。り。く
妻。い。ふ。よ。の。あ。そ。と。書。し。一。ぬ。し。を。福。づ。い。子。と。い。ふ。も
の。な。て。と。あ。ら。も。ま。げ。い。ろ。ま。り。西。條。人。の。道。れ。根。え。い。

主婦 笑ふにきくはさ。志乃後より妻とけりへをうい乃
まのいして子孫のけかんよ。其かの道ありけし世とす
ひ氏とをいひる子を能くい。天下れ来とぬ。人をそと祿
國はまことの子孫おと。四海乃けりひたり。そのけり
祿の中れありよりとらり。人道一世のち勢はまにあり。
志乃めお合ひらぬ。その情の勢は向く也。風多雷震
甲子庚申とまきつと。よるいりれあるをほりて
志乃てあり。又い月のさつれ死血をそとえく。子宮へ
入てり考もてば。痲病人とぬ。りも志乃はあま
あり。いれ子孫のねるれども。母をそむ月のほりて。

くの子に物事ある也。ばせれ物々。形風頼病の志となる。
或ハ缺骨あるい支離。たどりけしとバ死胎とぬ。又ハ母子
とりみ夫死するよ。人間一人ハ土神のけり傳。と世の伝
佛のけりまよ。あざれば。法住はあざるを。久とてく
容易やもむ。くく。業事ハ人の工に。る。後事ハ天工
あり。志乃ふ病子孫生じて。着書よく。性急の世
俾をおく。修羅のさるをま。てんをのれが。羽鳥ふく
り子。あろとさ。いぐ村とら。同か。病子孫生じて。祿よ
くろく。佛にわつハ。竹の子ハ。麻を。竹ハ。ぬく。金さん
とろの。あろちり。不調子をう。てて。公ハ。い。り。あ。

の

の

とらふんどの曲をよと森の中へ移し梅のみのやして芳して
功るたるやぞう。後湯五合乃十八度出へり俾れ是やら
うくはとる幸かなれ。根本をえんごと末にやとまる幸を
あつた。是病のと乃是あり。人造入とむと天印やうな
らむ。終らんがて年へをまう

想翹乃鴛とて物なう。泥難より方へ右流たぐれ。雄とあ
りして共し捕縄よ無る。雌とく好むて同じ網よ入る契い。まう
なく。あまのさいふさせ。人の恩とも無る幸なり。武蔵國
川傍れ側よ。その住をす。家よはくして。あま直し。無笑るに
男ありけり。且も主人の車のかれ中鳥好む。鶴小雀と初め。
紅雀菊頂。鳥鴨未だ。うかん。常に紺飼。玉之由がねび
を。わらう。まら。や。御り。まけ。ふ。或時。鴛乃雄と取まうて。
此男よ。あけ。水飼。ね。さ。す。り。て。弄。け。る。ふ。折。く。終。乃。中。け。く
鳴。声。の。耳。に。あ。り。て。お。か。ま。さ。色。め。れ。同。よ。あ。ま。雅。ま。さ。り
け。く。て。通。り。た。り。す。り。女。の。幸。は。ま。り。て。男。み。り。す。り。何。と。せ。や。鳥

鳥の幸はまると

くろくせんぎのど二人さぐ大味河原の別外シラフはるじは。國乃
守しより口使くちきて。おれたおれ赤あかとゆゆ人ひと教しやうすと林りん野のゆゆあふあふ船ふねのど。解とよ
彼者かたのり。何なによあてあてあふあふ氣きよりのあやまり也。盜ぬす屋や燒やの科かは
わらぬ。あふたに國の守しに百ひやくはらむとの由よし事ことといひはし。僕わがを
解とてつれ立たひきり。かてかて付つひひそのあふさぐ。彼國か北きた守し乃の仕し丁てい
下くださ一人ひとりももあふ。いふいふあふくわらうとあてあてもも輕かろきき。二人ふたりあふ
きて。この道みちさふささはる人ひと乃の宿しゆく。さあて。そそ夜よとと宿しゆく。ささびく
ままらうととららぬ。ありあり男おとこををあうとと。今いまの何なにををけけいいとと。いい人ひと我われの
そのそのれれ情なさけとと。今いまととななけけををささふふ外ほか駕がののああままううとと。けけらら。ああこ
ががれれ思おもひひののままれれぐぐ。今いま日ひももゆゆ今いまととねねひひなりなりいいとと。いいううと

見みれれいいととののやや羽は打うちてて消しょう失しつぬぬ海うみをを感かんじてしてははららひひくく事こと。
高たか敷しきもも同どうじじくくもも老らう是しとと背そむいい何なにもも似にたりたり物ものぞ
孝たか隆りゆうのの圓えん小せう栗りつのの方かた。小せう次じ市し助すけ重ちゆうといいひひ。僅わずか倉くら時とき氏しのの代しろ。
所ところ等らとと没ぼつ収しゆぞぞ。子こ細こああううてて。流りゅう活かつのの身みもも。國くにををささららぬぬ。
金かね銀ぎん資し財ざいとと携たづへへ。ああ堂どう四し五ご人にん。具ぐもも。ああれれととああるる。ここ平へい定ていあ
ととささああららいい。相あ引ひ控こう現げん堂どうとといいふふののけけ。戲たの女れめ多た
く。坂さか東とうののむむびびああめめがが。中なかつにに控こうとと屋やとといいはは。ああららぬぬくくのの女めも
ぬぬめめりりてて。結むす文ぶん又また勢せいれれゆゆ人ひとととけけてて。賑にぎ々々ふふ。小せう栗りつもも其その家け。
かかららああららぐぐ。宿しゆく。一ひと夜や二ふた夜や乃の旅たび探たんのの床しと。何なにももああららぬぬ。身みれ
ははららひひぬぬととああららぐぐももななくく。休やすみみのの共とも々々がが。多たくくももななららぬぬ。女めはは中なかつにに。

下

三



左田原を道灌へ。扇子が谷に上敷に仕立て。威風を園の赤よぬ
 うよ。あつり所身れカ美よ。あつりて。血氣さくん。朝言ら。世を
 家として。川將麻瑞よ。乳をとりし。志馬と。系。驚。獸と。拉。さ
 ろて。情。も。ち。ぬ。勇。者。も。り。じ。が。或。耐。全。次。く。追。る。お。り。け。り。ふ。
 村。女。の。忍。く。袖。の。中。も。ち。や。う。ぬ。ね。ね。り。け。り。い。い。浦。あ。り。れ。あ
 中。ま。家。に。立。り。て。義。ら。傳。ん。と。大。方。な。り。て。あ。け。ど。人。言
 ち。ま。げ。り。お。驚。よ。ま。や。と。ひ。に。四。十。七。八。斗。の。女。乃。髪。れ。か
 う。と。り。り。の。足。の。う。ら。り。く。げ。る。に。有。ぶ。と。い。れ。ね。が。い。ん。次
 の。花。一。枝。お。か。で。打。笑。ら。る。ふ。保。を。接。立。て。あ。ま。と。こ。と。傳。さ
 げ。り。何。の。傳。し。れ。を。お。え。と。の。ま。り。傳。で。う。の。相。續。傳。し。ふ。

家。の。赤。家。れ。も。武。者。か。け。り。が。せ。り。い。そ。い。い。義。は。と。り
 ま。い。と。せ。り。せ。り。う。べ。保。を。と。れ。い。い。あ。と。と。り。け。り。ふ
 七。重。ハ。ま。花。い。咲。も。と。吹。の
 こ。め。い。り。い。ふ。さ。ね。と。お。り。と

や。り。赤。の。公。法。なり。屋。さ。か。け。り。あ。り。ふ。不。潔
 せ。り。り。は。あ。り。と。れ。あ。り。い。の。い。て。情。の。り。も。と。り。ご
 ぶ。と。悔。そ。件。の。あ。り。か。う。い。り。あ。り。れ。い。武。士。れ。ち。る。と。り。ご
 ぶ。と。て。一向。は。是。れ。を。公。法。と。せ。り。れ。い。果。い。中。の。上。ま。で。ゆ。め。え
 て。路。を。傳。り。し。あ。そ。か。人。の。口。あ。い。れ。り。と。も。あ。ま。い。り。あ
 ろ。り。け。り。一。日。は。こ。ら。れ。城。り。繩。法。武。の。り。乃。安。と。共。世。よ

いふなりたおありき。不幸にして志とさげさ。家勢は佳れ也て
のふふとれたらこそ今の情く見

うのくかたれ才とさひちるは
得とく。老飲のふらして。奇れなる本は多の。深奇と
て色よサわく。情とる。されどもさいと迷情をかいう。終
さ人はよいと解媒とぬ。石灌の奇より忘らう。意を
奇へてを紙みぎ。万と係の望に。又弱く強を制
するの理よけする。何れもよ。おちとをけざら。目の
本れ人乃ねよ。いわけ。神明も奇にこそおささる

後別清見ケ岡の世令膏い。いやへ伯良が腰くけて。羽衣

うらねの脂とまそげて。ご粒の浦波はらり。煉物とるが。好く
脚氣腫乃金る。事とる。なれ。越さるの。中流の。千
令紙情も。あう。店お。紙れ。紙れ。事とる。今
是天より人を憐とて。世の。天と降。あ。具。つ。つ。も
似や和が。職款とて。着板。誠令と。老。老。愛人を。拓
く。梅の。木れ。和。中。も。お。田。糸。の。介。あ。り。ぐ。る。ま。れ。下。より。い。金
屎。風。一。目。紙。れ。る。く。世。乃。さ。う。い。地。苦。丸。は。ほ。り。り。と。て。人。の
氣と。厚。招。へ。い。あ。る。く。い。画。に。り。や。中。に。清。見。の。膏。ま。は。
朱。虫。の。強。拵。が。根。本。に。ま。う。ひ。な。い。つ。の。は。下。り。う。又。者。紙
ん。世。れ。穿。す。小。を。多。れ。い。は。を。を。の。者。脚。足。も。白。く。り。向。と。縁

〇意え者下

とていざいびきガ中い家一先のほせとりの名も川乃
流先祖いしを流人れ果持てくらを及ぬ程あり。
情うらなまそ。只能神の信答やと。さいとさむ人より。
あてあふと猫のふらびい。人は奈りぬよのされいそらく
とせむ。我さりのく事さるぐ。女よんせつた親にうり。妻船川
あさうれ色店よ。其まきまれどわがよい。茶ろをていも紙
志あつ。燗茶のそむい吸付たれ。おがこぐりに。人目とよけ座
よは意とぞかぞれく。百舌及あるる。石男でも。度くさならん
洲ほてふ。すて。髪さくか。とせに。とらわらげり。れ。角母あな
まの。茶を乃女もも。と。片一ふ中間刻して。あぐい乃と紙

迫人合く行よ。こ日や。ねいけい。いして。云傳とる中。うみを越
中。片流右流。流して。れや。あやと。あけい。よ。人。に。ぞ。めく
つじ。り。あ。は。も。紙。と。り。里。に。あ。ら。う。く。は。あ。れ。を。こ。ま。じ
うい馬。被。流。は。ら。せ。る。あ。る。じ。ぐ。あ。ら。る。い。の。せ。一。あ
て。今。い。田。瓜。作。り。島。瓜。転。て。心。の。ゆ。に。才。を。お。う。へ。じ。う。一。乃
劍。と。流。あ。て。茶。持。の。ね。を。ぞ。集。と。り。と。せ。れ。も。え。れ。あ。ら
楊枝。遣。有。い。ん。ぐ。男。乳。を。い。ひ。り。始。の。お。ん。を。い。あ。ら。じ。む
る。と。習。り。を。流。れ。お。れ。も。と。ぞ。そ。う。が。嫁。入。は。の。娘。よ。は。お
邪。神。と。申。は。け。れ。お。う。て。下。女。と。お。り。に。あ。ら。へ。し。又。は。男。お。り。し
わ。一。あ。ら。じ。び。り。ま。腹。に。痛。ま。い。て。何。ゆ。え。と。り。は。り。あ。ら。う。

け中に瘧つひえひまづれにうろくやせやめた息いきづるゝれればおぬとも
 こゝれ毒どくづりさゆに打ちのりていつと氣もはきつららん
 折をも今いまのげらほんちの遠梅とほいぢるあやむる種たねられば
 隣となりのうれ嬉こころまことほそいつれ立てがごさふまうそらうく足
 とけいづつがごみくれと細こまいのねまきおつて目乃葉
 されるま搦つかてお道いぢよせよ。暖ぬるよい途みちにまおと越こむと細
 ぐま瓜うり付てとあつられ隣れおうあつめんも向むかひのあつ
 お竹たけまどろぐ他ほか極たぎめらうりてまほまほしまへんやとごよみ合あ帽ぼう子
 くりてまちめくまどけのまいれがのつちじほせり今日けふいせ糸
 ちる月つきけよとせつれてほへちの梅乃うめ下した枝えだよ氣いきと絶たへ

花はないさぞれ梅うめこころあさく懐なつかむ

や。香かやいのくく袖そであふ人をまごむと志こころくはに吟うたやいさ
 はつれさこころ高たかくもさば。ほ土つちとかがちてうろくとさやとひいてめ
 うらとらゝものせうらに像いづなの細こま結むすい人のまゝぬま。ちんとや
 みる同じくらゝあづいけはがまのせで。井いまが省しやうふらとあまは。
 福ふくのまてめえんまてとけりもく罪つみも報あたまもを初はつくけと果はる
 度たのあつてはれぬく動うごをねてはらうじひとまうさうらひら
 かりくる。法ほふも事ことも念ねんてまへひらとれい根こん根こんはほしや
 志こころの神かみのふらうわひら味あじいふとまげとれをうら。余あま念ねんも
 他ほか念ねんも長なが衣いひふらうらと怪あやらんで昔むかし風かぜのる取とりやみ君きみ

白くうらひなうら

腸ちやうのを通するはけりきく罪つとも報むかはりといふはら
虚うら氣け魚がと乳母あはと動を付てほとしひとまりり
かいくる。酸すんも耳と合てまいりといはれい根根こんこんといふはら
二の神かみの入りわりの味あじいふるはらけがされり。余あまも

い今い諸をそよすまぢりれもめとさんがめせとら浦乃
浦乃のさかりが解物とてお祝の耳に入つていづく制とんばそ
ま下りほいあの後も思はれほて通らるるまじりしとて
れぬ付いまもさるれつとほよほ乃神の隣よの唐歌を
づりかりとほせばよくさあそとほく祝乃を生てあつと
てし我るはぶやまよいあつて着と服の如くしにぬて
惜くけりしあごら方を控てこそころしぬもて思ひく
うといて終よあまんと盗出りぬ来とくはぬらう。さうと乃
祝のさげとあつとふ物をさしぬもあ祝の格式をいしん
つとるい酒と極拳で掛い祝の如き鬼子なり。定て宿

世のうたゑるん。是非もはげといとる叔姨をかにけ合は牙乳
足牙。後牙。後牙のあつとせけつと曲来るとと先く
先を塞がけい何を使よほまのほよゆつてうらくと。ほ
くあもあまは。本よりあぬれ不貯ゆ。及代をもあつと
おとあひいしと。げめてあも不候なり。すく。あを立物て
退るもあまもさよとほや。まこつと傍のう。ほをほけい。極身
の尾とのくと。あまもあつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
い合は村と名を中を滅級。一歩もあぬ。あひ。神も。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。

とらさぬ湯衣おまんをぬしてハ神をハ。はせと回してハ抱さる
いゝ住様赤土の小屋お後隣に祈れねい。若く世活とん力を
煮て汗袍中へ果さるふ。或は月夜物とどらば。懐くしじに
乃とハ祝物やの石礫ねきどは。何者の悪作とるぞや。いふく
そさういと終いとの。命ふくも平とるもどて。是まじりかたて
ふよあまうれせせい何乃甲装うあらん。いざ法たふ死出乃あ病
そくおなまとくれいや。や。業刀をけうとく。信じてん。懐とや
ま。紙包ころ。扇粘をぢぬいて。室にわう。不さ。後かろ。月夜
さ。い。いと。して。う。れ。い。ば。お。まん。と。あ。く。夏。の。母。の。ま。け。わ。り。若。の。死。地
う。さ。り。して。い。れ。い。れ。い。の。中。に。い。ま。き。判。甲。の。千。身。細。信。れ。合。を。て

あそ包きん。ならが母い。いおまん。ぐ。乳母。の。ひ。げ。ま。が。り。ま。さ。く
あ。り。う。あ。ひ。よ。い。び。に。れ。い。も。且。ね。ま。婦。ハ。眩。ま。つ。け。い。び。ぞ。お。ね。お
け。考。後。も。ど。め。く。と。る。あ。い。岳。り。り。が。ま。さ。ま。う。す。り。い。極。め。わ。り。
余は。ま。う。ま。い。合。力。を。れ。こ。あ。ま。ら。れ。大。切。と。社。に。祈。り。て
お。祈。ら。う。け。い。び。に。お。ね。と。換。り。一。集。先。へ。業。内。か。い。落。け。ら。な。
い。づ。れ。せ。い。燃。や。ど。方。ぞ。これ。お。い。か。う。と。る。こ。人。の。恨。む。そ。け。り
久。世。の。ろ。病。と。て。清。の。う。り。清。信。一。お。まん。い。い。せ。は。ほ。せ。い。又。下
働。身。い。ら。れ。の。の。一。度。情。お。沼。を。能。け。人。の。面。つ。ま。え
く。して。と。持。よ。業。々。れ。足。ま。て。ぞ。う。く。と。ひ。か。も。暖。く。ま。さ。い。び。
ほ。ぐ。い。い。じ。う。と。ま。よ。ま。好。の。ら。迷。信。信。回。乃。亦。又。首。了。

とさういふもよきとて此の形骸のちよ。老鷹の明林へ獲らん
とつひ掛もち。中多か。何年何月。そのまに史料はを購ま白
其は同中の旅。い。版方氏と。おろ。何種へ社系の初。あ。じま
後。う。れ。無名。実名。の。く。由。緒。あ。る。中。も。り。く。い。ぬ。目。を。四。で
つ。あ。ら。い。る。あ。さ。し。も。ら。う。と。入。郡。の。親。系。使。よ。け。け。ら。う。し。な。ど
の。越。村。也。い。の。下。れ。百。姓。の。人。お。ま。ん。ぐ。又。毎。大。き。ふ。勢。だ。め。も。の
竹。を。と。り。ま。さ。く。は。御。前。で。一。過。と。後。々。い。い。は。せ。ら。れ。る。あ。ら。ん。
我。亦。清。見。よ。在。一。村。を。お。れ。ぬ。く。中。も。も。く。壁。紙。う。ら。ら。て。盗。お。じ
娘。と。さ。う。る。人。倫。の。乃。と。む。ら。う。是。は。公。を。親。の。身。け。ま。け。て。恨
へ。ま。ま。い。あ。ら。い。身。け。ま。け。ぬ。く。武。治。の。身。け。ま。け。ぬ。く。私。の。の。ち。ま。う。人。の

鏡をくらまた。と。やう。ふ。娘。と。親。里。に。返。し。と。ま。ま。探。抄。乃。れ。と
り。て。じ。う。史。と。て。お。ま。ん。を。席。一。と。の。年。れ。書。結。入。を。さ。ら。り。公
依。晴。て。の。晴。れ。い。せ。ん。ぐ。じ。く。は。終。け。り。漢。の。司。馬。相。め。が。世。紙
可。笑。人。を。ほ。ま。ん。ぐ。ら。う。や。り。ぬ。ま。て。何。は。泥。じ。る。ゆ。え。に。さ。ら。り。あ。ま
身。ま。ぐ。卓。文。君。が。人。ま。似。せ。ぬ。風。儀。の。抑。一。か。ま。ら。ぬ。白。か。ら。ら。ぐ
婿。の。い。ふ。身。の。非。ま。と。る。と。お。ま。ん。に。ひ。の。け。心。星。の。殺。え。よ。と
ま。へ。お。て。居。て。く。あ。ら。ぬ。風。を。れ。ぐ。相。め。が。す。と。さ。あ。又。文。君。も。お。ま
お。人。と。撰。ま。れ。し。和。け。ら。け。ら。る。様。の。き。く。あ。ま。り。け。ら。い。暖。女
か。り。相。め。が。獲。一。知。照。袍。を。お。ま。埋。一。あ。氏。が。撲。塚。の。骨。一。と。ま
る。と。さ。ら。り。あ。ま。ん。と。同。み。品。案。の。お。く。相。め。が。財。願。ね。り。子

虚の賦時天子の巾衣入官賜福とほて布の禪と蜀紅
乃錦ふつるの夜何の業のうけ者境の万里とつらまこと
は日月の天が下はるのぬものい只てりたり

侍は曰物と想するの強されば必志孤先は師て色に先を
乃と換じ義を中する人れ事なり林あじべし地を良し海せり
あく一柄の海はしれぬる人備のいりうをた西
れうい色にほてれぬ背くとも世のあは師もき歎よるうも
て乃と先とあつらひのいをいぞれらんうのあは師のいん
とも月雪はよ新してはよ世歎といれ我よひくさ友と招
てあふがぬもを佛と仏のはけり。能くの方丈うんさ

を。唐大和の好な器をあらせ。炎くくんとるよめが。我と
あふり人け道具はあがるや。千万のをれとくもあつら
敷く格と心とと。まろをわくともい何事ぞ。又深心の
縁つとら。自然に枯木新葉のゆり。中とてうらあひ
つはひるさ枝のいびりうと。床乃一籠よつらて箱と
あそ。立花の格をぬぬる火とくして捻針のぬらめ
付ていふ曲りてこの縁の作をとい何のうりや。ささ
器を用ひ本は。まらまらとてその人まらるが乃備
とねあまのたをいといふさ。今たあつてさ。競る
まどさうい。曾受乃ぬら。まら。其下公歎はけり。

大岡記一評して公返りやふまをさふ偽のされぬ。天よ通
鬼神の感ざるを。黙してあべしや

再評とて端よ文字とありて。志れぬと美聖は通
りせ。平はぬまや瓜彫て。夕路一孝道を供へ。何日乃
話さう。菊女がみのち兼へ給へ。妻女が降國のやぐら
は。ゆるして浦人のいふ。上岡一進や。いさひけさ
ざるれぬさう。天乃叩く。あまの毎日多き。さう
世くらぬ人の偽りも。ざるを。何事とせよ。新まごを。ま
後もあぶまう。いささ。この穢る。うまを。一度の
ふれぬさう。又かき。あまのけさ。されど。終る。この過

のがせめて。野を。かき。け境と。多割と。孝に。海と。ひらび
人目乃。岡一。形。いさ。あ。れ。て。も。を。い。君。が。信。ぐ。た。か。よ。さ。し。い。こ。が
あ。し。ひ。の。狐。不。二。の。煙。乃。絶。せ。ぬ。ふ。よ。さ。人。溺。る。志。の。此。身。を。ば。
大井の。海。さ。割。る。ま。ご。へ。世。狐。信。ぐ。人。を。か。ら。海。の。う。り。中。ぬ
沖。の。石。と。く。づ。て。さ。ん。ど。私。を。あ。け。の。杖。が。ら。ま。の。情。の。あ。ら。ど。
身。の。光。打。信。と。く。づ。け。よ。今。の。茶。芥。と。腹。よ。ま。ま。と。あ。つ。ま。
な。う。さ。の。け。く。さ。り。さ。れ。い。ま。い。う。ら。る。ま。ご。の。信。計。は。な。の。信
の。ま。う。て。一。首。ほ。あ。ら。も。肺。肝。の。さ。け。て。や。い。づ。ら。け。る。い。ま。天。地。も
秘。し。鬼神。も。感。ぜ。ぬ。い。さ。あ。つ。て。あ。ら。は。融。く。下。細。の。契。い。ら
で。り。ま。ま。あ。ら。は。ら。ん。ま。が。ま。よ。向。へ。ま。帰。や。い。だ。て。借。を。同。院。も



